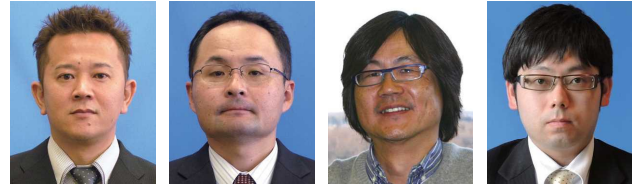


米国における監督・検査と品質管理の実態

(研究期間：平成27～29年度)



社会資本マネジメント研究センター 社会資本システム研究室

研究官 行野 芳紹 室長 古本 一司 主任研究官 市村 靖光 交流研究員 笹川 隆介

(キーワード) 米国、公共工事、工事監督、工事検査

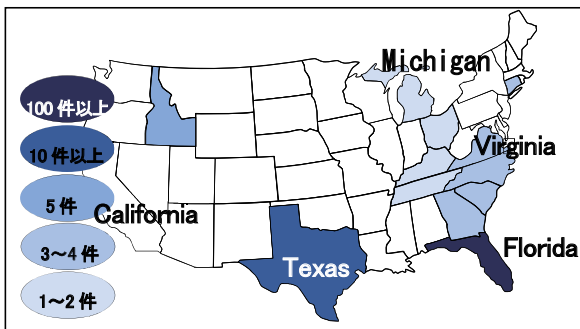
3.

生産性革命

1. はじめに

発注者に求められる業務内容の多様化や、職員の削減が進む中、国総研では、品質を確保しつつ公共工事の監督・検査の合理化・効率化を図るための調査研究を進めている。

その一環として監督・検査業務の外部委託を積極的に進め合理化・効率化を図っているフロリダ州交通局 (FDOT: Florida Department of Transportation)



における監督・検査の実態について調査を行った。

図1 監督・検査業務の外部委託件数

2. 監督・検査業務の外部委託、及び職務と責任

FDOT では、1980年代中盤より CEI※「※ Construction Engineering & Inspectionの略称で監督・検査業務のこと。」を民間建設コンサルタントに委託する取組を行っている。我が国の現場技術業務（現場技術員）も民間コンサルタントへの委託を行っているが、監督職員の補助的な役割としての位置づけであり、施工者への直接的な指示権限は有していない。

一方、FDOTが外部委託を行うCEIの職務内容には、発注者側の技術者が工事実施段階で行っている監督・検査業務の大部分が含まれており、追加工事の

必要性や変更事項などの提言、施工者との変更事項の交渉や根拠の整理等を実施している。ただし、工期や契約金額、設計変更等の契約内容の変更が伴う意思の決定については、発注者の承認が必要となる。

3. 工事の品質確保における発注者の役割

施工者責任の明確化等の趣旨から、工事材料や出来形等の品質について、施工者が主体で品質管理 (CQC: Contractor Quality Control) を行い、CEIでは、施工者が主体で行った工事材料の試験結果に対して抜き取りによる確認検査 (Verification Test) を行っている。また、こうした確認に加え、プロジェクトとは独立した立場であるFDOTの地域事務所材料課によって、施工者側（材料メーカー等）の試験機器、機材等の精度等を確認するため、同じサンプルを用いて検証 (Independent Verification) を行い、試験の精度検証と試験結果の改ざん防止を図っている。我が国においては、昨今試験結果の改ざんに関する問題が続けて発生しており、こうした取組も踏まえつつ、より合理的な監督・検査手法について、検討を進めていく。

4. 今後の予定

本調査で対象としたFDOTは米国内でも民間コンサルタントを活用したCEIの実施に積極的な州であり、外部委託のCEI契約額が総事業費の12～14%を占めている。このように民間コンサルタントが大きな役割を担っており、今後、関連する仕組みや、制度の詳細については引き続き調査を行う予定である。

一方、カリフォルニア州交通局 (Caltrans) のように発注者側の技術者の役割を外部委託することによる否定的な組織もあり、米国のCEIを一括りにできない点には留意が必要である。